

2020年12月27日（日）降誕後第1主日 銀座教会 主日家庭礼拝

礼拝招詞 「 神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」

ヨハネによる福音書3章16節

主の祈り

使徒信条 我は天地の造り主、全能の父なる神を信ず。我はその独り子、我らの主、イエス・キリストを信ず。主は聖霊によりてやどり、処女(おとめ)マリヤより生れ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死にて葬られ、陰府にくだり、三日目に死人のうちよりよみがえり、天に昇り、全能の父なる神の右に座したまえり、かしこより来たりて、生ける者と死ねる者とを審きたまわん。我は聖霊を信ず、聖なる公同の教会、聖徒の交わり、罪の赦し、身体のよみがえり、永遠の生命を信ず。 アーメン。

讃美歌 101番

聖書 ルカによる福音書2章8～21節

8 その地方で羊飼いたちが野宿をしながら、夜通し羊の群れの番をしていた。9 すると、主の天使が近づき、主の栄光が周りを照らしたので、彼らは非常に恐れた。10 天使は言った。「恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。11 今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。12 あなたがたは、布にくるまって飼う葉桶の中に寝ている乳飲み子を見つけるであろう。これがあなたがたへのしるしである。」13 すると、突然、この天使に天の大軍が加わり、神を賛美して言った。14 「いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に適う人にあれ。」15 天使たちが離れて天に去ったとき、羊飼いたちは、「さあ、ベツレヘムへ行こう。主が知らせてくださったその出来事を見ようではないか」と話し合った。16 そして急いで行って、マリアとヨセフ、また飼う葉桶に寝かせてある乳飲み子を探し当てた。17 その光景を見て、羊飼いたちは、この幼子について天使が話してくれたことを人々に知らせた。18 聞いた者は皆、羊飼いたちの話をも不思議に思った。19 しかし、マリアはこれらの出来事をすべて心に納めて、思い巡らしていた。20 羊飼いたちは、見聞きしたことがすべて天使の話したとおりにだったので、神をあがめ、賛美しながら帰って行った。21 八日たって割礼の日を迎えたとき、幼子はイエスと名付けられた。これは、胎内に宿る前に天使から示された名である。

牧会祈祷

天の父なる神様、降誕後第一主日をお迎えしました。また、本日は今年最後の主日礼拝です。今年的一年を振り返る時、世界的な新型コロナウイルスの脅威がありました。大きく変化した自粛生活の中、試練の時を私たちは与えられました。その様な年の中、私たちを守り導いてくださり感謝します。あなたがこの年、わたしたちにお与えくださった恵みの一つ一つを数え、感謝いたします。新たな年を迎えます。来年は皆が安心して会堂で礼拝をお捧げすることが叶いますように。救い主イエス・キリストの福音により新たにされたわたしたちです。日々、あなたの御言葉と恵みを注いでください。愛する兄弟姉妹の健康と信仰をこの週もあなたがお支え下さい。来る年を迎えるにあたり、神様の前に心を整えて、主の平安と希望のうちに過ごせますように。

主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

説教 「主は良き羊飼い」

伝道師 藤田 健太

ルカによる福音書によれば、主イエス・キリストは、父親ヨセフが皇帝アウグストゥスの勅令に従って住民登録をするために赴いたベツレヘムでお生まれになります。言うなれば、主イエス・キリストは「旅先」でお生まれになったのです。主イエスが旅先でお生まれになった報告のすぐ後に本日の羊飼いたちの物語が続きます。この話の流れは決して偶然ではないと思います。羊飼いたちは、その仕事の性質上「旅」と深く結びついた人々と言えるからです。現在の遊牧民と呼ばれる人たちの活動領域は推定 10~80 キロに及ぶそうです。聖書の時代の羊飼いの活動領域もそこから類推することが可能であると思います。彼らの生活はまさに「旅」そのものです。

そんな生活の中、羊飼いたち自身も彼ら自身を導く「良き羊飼い」(ヨハネによる福音書 10 章 10 節)を必要としました。羊飼いたちは知恵と経験と勘を頼りに羊の群れを導きます。しかしそんな彼らも一匹の迷える羊に過ぎません。彼らもまた、自分たちの困難な旅路に常に寄り添う最良の導き手を必要とするのです。ルカによる福音書 2 章 8 節以下に語られるクリスマス物語は、そんな彼らが自分自身の「良き羊飼い」に巡り合う物語です。言うなれば、神様との出会いの物語です。私たちはこの物語を私たち自身の物語としてお聞きすることができると思います。16 節「そして急いで行って、マリアとヨセフ、また飼い葉桶に寝かせてある乳飲み子を探し当てた。」一主を必死に探し求める羊飼いたちの姿には、神を求める「飢え」「渇き」が感じられます。私たちは皆、自分たちを治め、導いてくれる「良き羊飼い」を求めています。神を求める私たちに対して、聖書はクリスマスの主イエス・キリストを指し示します。羊飼いたちと共に飼い葉桶に憩う御子イエス・キリストを見出す時、私たちは、私たち自身の旅の最良の導き手、慰め主を知るようになると言えます。クリスマスの主と出会う時、私たち自身も「この幼子について天使が話してくれたことを人々に知らせ」(17 節)、「神をあがめ、賛美しながら帰って行く」(20 節)ことになります。クリスマスの礼拝が、私たちに「伝道」と「讃美」をもたらすのです。

物語の背景として語られる「皇帝アウグストゥスの勅令」は天使が告げ知らせた「福音」と対照的な関係にあります。「住民登録」の大きな目的は「課税」と「兵役」にあると思われれます。皇帝による人民の支配をあまねく行き渡らせるために講じられた措置であることは疑いありません。「皇帝による支配」に対して、天使たちが提示するのは「神による支配」です。地上の王による支配の背後にまことの神様による支配があることを天使は告げます。皇帝による住民登録の措置は身重のマリアに困難な長旅を強いることになりました。しかし、神様はその旅の中から、御子イエス・キリストの誕生を成し遂げてくださいました。私たちがどこに赴こうと、旅先には、まことの神が共におられます。ヨセフとマリア、羊飼いたちは小さな馬小屋に共に集い、自分たちの旅を導いてくださったまことの神様を礼拝しました。私たちも彼らと共にまことの神様を見上げたいと思います。

降誕後第1主日の本礼拝をもって、私たちは新しい年に向かってゆきます。コロナウイルスによる未曾有の体験を経た私たちが一体どこに赴くことになるのか正確な見通しを語ることは誰にもできません。しかし私たちの赴く先には主が共におられることを今年のクリスマスの礼拝では特にそのことを心に深く刻みたいと思います。小アジアにあるプリエネの都市で見つかった碑文のカレンダーは、当時のローマ帝国属州民たちが皇帝アウグストゥスの誕生記念礼拝を新年の初めに献げたことを伝えます。しかし私たちの新年礼拝は、まことの神様である主イエス・キリストに献げられます。「福音」という言葉が皇帝の「誕生」や「即位」を告げる狭義の意味しか持たなかったその時代、クリスマスの天使は「福音」という言葉の意味を豊かに押し広げてくれました。神様の御子の誕生を祝うことから私たちの新しい歩みを始めましょう。

祈り

天の父なる神様、降誕後第1主日の主日礼拝の恵みに感謝いたします。私たちにまことの良き羊飼いを与えてくださったクリスマスの恵みに感謝いたします。どうぞ来る年も「羊飼い」である神様と共に恐れることなく歩みを進めることができますように。私たちの教会の歩みをお守りください。主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。

祈 禱 (各自、自由にお祈りください)

祈禱課題 今、病の中、試練の中にいる方に主の慰めと顧みがありますように

今年与えられた恵みを感謝のうちに数え、平安の年末年始を過ごせますように
世界中の諸教会がキリストの栄光を証しできますように
すべての方々の健康が守られますように

讃美歌 103番

献 金

頌 栄 544

祝 祷

主があなたを祝福し、あなたを守られるように。

主が御顔を向けてあなたを照らし あなたに恵みを与えられるように。

主が御顔をあなたに向けて あなたに平安を賜るように。

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、

あなたがた一同と共にあるように。

アーメン